

COVID-19ワクチン(ChAdOx1, BNT162b2)接種後の時間経過に伴う静脈血栓性イベントおよび血小板減少症のリスク — イングランドの全国規模のコホート研究

[Risk of venous thrombotic events and thrombocytopenia in sequential time periods after ChAdOx1 and BNT162b2 COVID-19 vaccines: A national cohort study in England](#)

Andrews NJ, Stowe J, Ramsay ME, et al.

**【Lancet Reg Health Eur. 2022 Feb;13:100260】-peer reviewed (査読済み)**

(要旨)

◇背景

COVID-19 ワクチン接種後に、血小板減少症を伴う血栓症、または単独の血小板減少症が報告されている。イングランドの全国規模のコホート研究で、ChAdOx1 アデノウイルスベクターワクチンおよび BNT162b2 mRNA ワクチン接種後のリスクを評価した。

◇方法

2020年11月30日～2021年4月18日の期間における大脳静脈血栓症(CVT)、その他の静脈血栓症、または血小板減少症による入院を、全国 COVID-19 予防接種記録とリンクさせた。年齢、性別、併存疾患、介護付き老人ホーム居住の有無、および医療/社会福祉従事者か否かで調整後、予め規定したワクチン接種後のリスク期間における接種回別イベント発生率を、ワクチン未接種のコホートと比較して推定した。相対発生率(RI)<sup>A</sup>推定値の上昇が  $p < 0.001$  であれば、関連を示す強固なエビデンスとみなした。

◇結果

ChAdOx1初回接種後のCVTのRIは、15～39歳および40～64歳でそれぞれ8.7[95%信頼区間(CI)[5.8～13.0]]、2.2(95%CI[1.4～3.2])であった( $p < 0.001$ )。15～39歳におけるリスク上昇期間のうち、ワクチン接種後4～13日の期間でのRIが最も高かった[16.3(95%CI[9.9～27.0])]。寄与リスク(AR)<sup>B</sup>は100万回接種あたり、15～39歳で16.1、40～64歳で3.2であった。これらの年齢層では、他の血栓症による入院のRIは上昇し、ARは100万回接種あたりそれぞれ36.3、16.4であり、血小板減少症のRIも同様で、ARは100万回接種あたりそれぞれ11.3、10.1であった。65歳以上の年齢層、ChAdOx1の2回目接種後、およびBNT162b2を接種したすべての年齢層ではRIの上昇はみられなかった。

◇考察

本疫学研究では、ChAdOx1 初回接種後1カ月以内の期間に、65歳未満の成人において血栓イベントおよび血小板減少症のリスク上昇が示されたが、BNT162b2 接種後にはリスク上昇はみられなかった。

---

<sup>A</sup> relative incidence

<sup>B</sup> attributable risk